

第52回「市民の皆さんとランチで対話」概要

団体名	風の松原に守られる人々の会
開催日時	平成22年9月28日（火） 正午～午後1時
開催場所	市長応接室
出席者	風の松原に守られる人々の会の皆さん：鷺尾会長ほか6人 市：市長、農林水産課長、都市整備課長、地域情報課長、広報広聴係
案件	①能代公園脇の越後屋太郎右衛門が植えたと言われる松群の保全について ②風の松原に対する市の未来像は？ ③能代市風の松原保護検討協議会の後続について
会議の概要	<p>(○…風の松原に守られる人々の会の皆さん ●…市長 ■…課長等)</p> <p><b>市長との対話内容</b></p> <p>○風の松原を守る活動のほか、松原観察会、バードウォッチングなどを行っている。ランチで対話は今回で2回目になるので、問題点を3つに絞ってきた。</p> <p><b>1 能代公園脇の越後屋太郎右衛門が植えたと言われる松群の保全について</b></p> <p>○この松は私が見る限り能代で一番古いと思われ、私の最近の調査で周囲3.27mもあり、今でも成長している。樹齢も210年くらい。非常に愛着のある場所なので寿命はあってもできるだけ長く生きられるよう市に保全をお願いしたい。会では、県の助成を受けて来年3月に樹幹注入する予定。今年の春にこの松に虫食い穴を発見し薬剤散布した。この一群が枯れたら大変だと思う。</p> <p>●市長 非常な貴重なものと考えている。今年4月の連絡を受け白神森林組合に見てもらったが、虫食い穴が外側の古い樹皮にあり、中までは到達していなかった。樹液も出ていて大丈夫とのこと。今後も有利な補助などを活用しながら保全に努める。</p> <p>○秋田県では松くい虫が16種類くらい生息している。この松に見られたのはオオゾウムシと思われる成虫の脱出口。八幡神社御旅所にある同様の松は松枯れしており、会では3月に防除しておいてよかったと思っている。この一群は風の松原の発祥の地と考えているので保全をお願いしたい。</p> <p>○会で薬剤散布したといっても一本だけなので不安。周りの木も含めて保全をお願いしたい。</p> <p>■能代公園の上に一本、松くい虫にやられた松があり伐採した。それ以外は見受けられない。気になっているので見回りは行っている。</p> <p>○そこに20本くらいあるが、穴があいているので松くい虫にやられる予備軍と思っている。</p> <p>■一回の樹幹注入で3年くらい効果があると聞いているので、一度にすべてはできなくても計画的に進めることはできると思う。</p> <p>●古木や能代の歴史を語るような古い松は、薬が効く3年間で計画的に樹幹注入を進めたい。</p> <p>○薬剤散布は3月までにやらないといけない。今年の3月の時は周辺の住宅に市から連絡してもらったが、当日は朝8時から実施した交通整理に難儀した。今後は市からも協力願いたい。</p> <p>●今後は連携を取りあえば、人員の問題も解消できる。木を守るという目的は一緒。</p>

○交通整理は当日朝に一中側と公園上り口の間を遮断しなければならなかった。警察から何か言われるのではないかとハラハラした。市も一緒であれば心強い。

●警察への届け出等は市がやってもいい。連絡を取り合いましょう。

○市では今まで防除や調査のための予算があったのか。

●おそらく風の松原では県が中心になって防除等をするときには市でも予算化していると思うが、貴重な古木を定期的に防除しようとした予算は無かった。3年に1回ずつという計画で予算をまわしていきたい。木の本数はチェックする。来年度予算で手当てしたい。

○市有地にも歴史的な古木が数か所あるので対象に含んでほしい。

●檜山の松並木なども含めて本数の確認と手当てのための予算化の準備を進めている。貴重な木を優先して進めたい。

■教育委員会管理の木も含めると100本程度になる。

## 2 風の松原に対する市の未来像は？

○戦後以降の管理がおろそかだったため、ジャングルのような松原になっている場所がある。このままでいいのかと危惧する。10m幅の防火帯も、枝が混み合い、また、市が記念植樹したりで、防火帯として機能しないのではないかと。米代西部森林管理署から今年春に第4次整備計画に要望事項があるかといわれ、このことを出したが、市からは要望が出ていないと言われた。また、森林管理署と市の約束事項で管理しているところがあるそうで、会でニセアカシヤの芽かきを行っている健康づくりの道周辺は、市の許可がないで芽かきできないと言われた。

■国からは森林整備計画策定の前に要望があるかというアプローチは無く、詳しい中身が無く、大きな計画や方針だけが書かれているものが届くので、意義なしと回答している。

■健康づくりの道の約束事項については確認する。

●風の松原は先人から引き継いだ大きな遺産。保安林としての本来の機能を維持し、松くい虫等によって荒廃することのないよう、国・県と連携しながら市民と一緒に対応する。市民の健康を守るという視点からも考えていきたい。病気にならない健康な人を増やし、能代市民は風の松原があるから健康なんだと言われるようになりたい。

○お願いだが、市の部長さんたちにも松原を歩いてもらいたい。防火帯が役割を果たしていないことがわかる。酒田の松原など他の松原と比べれば、風の松原の現状がよくわかる。

●皆さんと一緒に歩いてもいいかもしれない。

## 3 能代市風の松原保護検討協議会の後続について

○平成18年4月、日本緑化センターが全国の白砂青松のタイトルをもつ地域を対象に、松の回廊構想を立ち上げた。能代市も助成がある日本の松原再生事業に立候補したが、受け入れ体制が弱いという理由で採用されなかった。このため、風の松原保護検討協議会を作ってもらったが、時間的制約もあり、十分な話し合いも無いまま終結してしまった。今後の見通しを。

●議論できる場、受け皿となる組織は必要。担当課で年内に間に合わせるよう準備を進めている。

○今月18日付けの北羽新報に伊藤先生の文章が掲載されていたがどう思うか。

- いろいろな考えがある。理解できるところもあるが、全ては難しいとも思う。風の松原については、色々な方から様々な意見をもらっている。
- 虹の松原ではゾーン分けしている。能代でもやれば良いと思うが。
- そのようなことを組織の中で議論し、意見として出てくれば行政としてもありがたい。個々に意見がでるより、みんなが認めている組織から提案してもらえれば動きやすい。

#### その他

- 松原で火災が起きれば、手の施しようがない。15年ほど前、消防団から防火貯水層をという提言もあった。人が入るのはいいが、煙草の吸殻が怖い。森林管理署から禁煙という表現はうまくないといわれ、火の用心と書いた看板を設置した。効果がある標語が必要だし、総合的な防火対策の考えは。
- 防火水槽はどこに？
- 前は風の松原の中にと言われた。昭和18年の山火事は石油コンビナートが燃えたような真っ黒な煙だった。ボート係留から水を引けると思うが。
- 万が一、火事になった時、海水は使えない。
- 鳳凰岱や昇平岱の松原隣接地にも消火栓がない。
- 山林火災は薬で消火するが、松原での火事は盲点だったので検討する。

以上でした。